

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2023年1月20日第26号 (通巻32号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook:oribunokai



ジェニンの虐殺は、 第三次インティファダへの道に導くのか？



1月26日のジェニン・キャンプでの占領軍による老女を含む9人のパレスチナ人の虐殺が行われ、その後、さらにパレスチナ人が虐殺された。イスラエル軍によるパレスチナ人の殺害は、今年に入って35人となった。それに対して、ガザからロケット弾が発射され、その報復でイスラエル軍はガザを空爆した。事態はそれだけで収まらず、その翌日のエルサレムの入植地のへ21歳のパレスチナ人が銃撃を行い、7人の入植者が殺害され、このパレスチナ人も殺害された。その後13歳の少年がシリワンで拳銃を発射し、2人の親子の入植者に負傷を負わせ、少年も負傷し、逮捕された。占領軍は、21歳の青年の親を逮捕し、また、近隣の人々数十人を逮捕し、家を封鎖し、取り壊そうとしている。また、13歳の少年の親も逮捕された。

ネタニヤ首相は、治安会議を開き、家の破壊や、本人親族の居住許可を取り消しなどの集団的な懲罰による報復を決めた。

西岸各地で、占領軍に対する抗議行動が拡大した。また、エルサレムのジャバル・ムカベルでは、占領当局による住民の追放と取り壊しに直面し、占領軍との大規模な衝突になっている。

こうした緊張の高まりの前に、ついに自治政府もイ

スラエルとの治安共同を拒否を表明した。状況のエスカレートの責任は、イスラエルにあるとしている。反対に、イスラエルは、西岸でのエスカレートの責任は自治政府の無能にあるとしている。治安共同がなければ、占領軍を増強すると表明している。

パレスチナの他の諸党派は、民衆の抵抗と、武装抵抗を呼びかけており、ますます、パレスチナをめぐる情勢は緊張がエスカレートしていくことになるだろう。

1月30日、米国国務長官のプリンケンがイスラエルを訪問し、ネタニヤフと会談し、パレスチナ人の入植者への攻撃をテロとして非難したが、イスラエル軍が、パレスチナ人を殺害したことには触れず。イスラエルの現在の政府が見向きもしない2国解決をとえ、パレスチナには、治安共同にもどるように要求。ネタニヤフも、パレスチナについては触れず、イスラエルの最大の脅威はイランであると語ったのみであった。

プリンケンは、31日は、ラマラでアッバース大統領と会談し、治安共同にもどるように説得した。また、ジェニン・ナブルスでの治安計画を提案している。

こうした状況の背景には、新しく成立したネタニヤフ新政権の性格がある。極右シオニスト政権であり、パレス

オリーブの会通信 第25号(通巻32号)

チナ人との共存を否定する極右によって構成されており、それを背景に、入植者たちによるパレスチナ人に対する暴力、占領当局による住民の追放、建物取り壊しが進み、また、弾圧が強化されたことにある。そのファシスト的性格は、シャスの犯罪歴のある党首を大臣にするために、国会の決議が最高裁の判断を覆すことが出来る司法改革案が、民主主義を否定するものとして、イスラエル国民の反発を呼んでいる。この政権の下で、入植者たちによるパレスチナ人への暴力が拡大し、また、パレスチナ人の住居の取り壊しを拡大しており、その占領地の併合の意図を隠そうとはしていない。

こうした性格は、イスラエル国内からも不安視されており、シンベトなどの諜報機関も警告を発している。

ネタニヤフがプリンケンとの共同記者会見でのべたように、イスラエルの最大の脅威はイランである。この30日にも、イランへの無人機による直接攻撃を加えている。そして、シリア国内への爆撃を続けており、パレスチナ問題は、解決すべき問題とはなっていない。イランとの軍事的緊張は続いている。

アラブ諸国も、表向きはパレスチナ支持を表明しているが、実態としては、イスラエルとの正常化を進めてい

る。アラブ諸国は、自国第一主義で、彼らにとって、脅威は、イスラエルではなく、イランであり、それがイスラエルとの共通の基盤であり、正常化の基盤となっている。その結果、アラブの大義であったパレスチナ解放は、捨て去られている。

パレスチナにとっては、国際情勢は、最悪であり、欧米の関心はウクライナ戦争にあり、かれらが、いくら2国解決方式の支持を表明しようと、イスラエル政府がそれを実行する気はなく、エルサレム、西岸などの占領地を併合することにしか利益を見出していないし、占領軍と入植者たちによるパレスチナ人の追い出し、住居の取り壊し、土地の没収が力づくで進められていくことになる。

80年代、在外のパレスチナ解放闘争が困難な状態にあったとき、占領下パレスチナの人々が立ち上がった、インティファダによって、状況を突破してきた。今回も同様に、パレスチナが国際的孤立する中で、それを切り開くのは、パレスチナ民衆による蜂起しかなく、第一次インティファダで形成されたような統一指導部を必要としている。そのためには、自治政府は明確にオスロ合意を破棄すべきである。



投稿日時：2023年1月31日 | 09:48 (PFLPのHPより)

私たちは、シオニスト・エンティティ（イスラエル）の攻撃的な行動からではなく、この差別的な入植地主義エンティティのギャングたちによる「パレスチナの宝石、誇り高き抵抗の象徴」ジェニンへの新たな攻撃によって、9人の殉教者が死亡し、負傷者の中には重体で、殉教に近づいている者がいるので、増加すると思われることに驚かされた。さらに、重傷者を含む数十人が負傷した。

占領下のパレスチナ西岸のジェニンのアラブ人たちは、土地と名誉を守るために、殉教抵抗の新しい章を提示した。シオニストの侵略の道具がこの地域の入り口で壊され、侵略がその目的を達成できないように、その第

一は、抵抗の棘を折ること、ジェニンキャンプとその英雄的息子たちを襲撃しようとすることに対決することである。そして、敵の軍隊は、敗北、骨折り損、屈辱の尾を引きずりながら、ヒロイズムと抵抗の象徴であるジェニンのわが民族の胸の前に戻ってくるのである。

この侵略の背後にあるものは、ネタニヤフ新政府の成立であり、その政府には、国内治安と防衛の責任者となった犯罪者が含まれている。

これらの犯罪者は、シオニストの影響力が、エジプトとヨルダンに加えて、首長国連邦、バーレーン、モロッコ、スーダンという正統性を欠く政権との正常化の扉を開くことによって、新しいアラブの首都に拡大した後、すべ

てのパレスチナ人と彼らを公式に代表する彼らの自治政府に、降伏、シオニストプロジェクトの完成、シオニスト・エンティティの首都としてのエルサレムのオプションの賦課に代わるものはない、血、暴力と恐怖で浴びせられたメッセージを送りたかったのだ、一方で、サウジアラビア、カタール、オマーンの首都やレバノンの政党とは非公式に関係を結んでいる。

このことが不幸であることは間違いない。シオニスト・エンティティがパレスチナの占領地以外に地理的に拡張し、すべての国のアラブ人に不満と絶望を植え付ける目的で、ナイル川からユーフラテス川までシオニスト計画を具体化する彼らのたゆまぬ試みがなければ、こうした犯罪行為を敢行することはなかっただろう！シオニスト・エンティティは、このような犯罪行為に手を染めることはないだろう。抵抗が生き続け、その血管に血が流れ、そのシンボルに心臓の動脈が鼓動し、神の意志と意思に間違いなく支えられている限り、彼らは決してそれに成功することはないだろう。

このエンティティは、アラブ政権とその連盟、国際システムとそのグローバルな組織の意志と関節を制御するかのように、私たちアラブ人に対するこのシオニストの侵略は、昨年12月前に2023年1月を通してジェニンで、恥ずかしいアラブと国際沈黙で起こったことは遺憾であり、それはシオニスト・エンティティ、そのギャングリーダー（ネタニヤフ）と彼のテロ政府がやっていることの強い非難を防止する！

最近、シオニストの刑務所で40年を過ごした2人のパレスチナ人囚人（カリム・ユネスと彼のいとこマヘル・ユネス）が釈放された。実際、何千人ものパレスチナ人

が占領している篡奪者の刑務所にいるがと国会にはその代理人がいて、誰も彼らを解放するために動いてはいない！占領地におけるパレスチナ人に対するこの不当な行為は、いつまで続くのだろうか？

パレスチナ自治政府は、その限られた影響力にもかかわらず、シオニストによるジェニンへの侵略の直後に、この篡奪エンティティとの安全保障上の協調を停止するイニシアティブをとったことは、よくやったと思う。自治政府は、抵抗の選択肢を支持し、パレスチナ人民蜂起の活性化を促し、暴力行為で指名手配されたからといって、人々をシオニスト・エンティティに引き渡してはならない。彼らは基本的に、この実体に対する抵抗行為なのだ！

もはや、このエンティティが去るまで、抵抗、そして武力抵抗という選択肢以外、いかなる選択肢もない—それは、連続する日々によって確認されている—のである。シオニストの内部要因が、抵抗と民衆の蜂起を動員するために適切なものになったことを確認しよう。パレスチナの人々は、もはや起こっていることを容認することはできず、この組織に対する運動と蜂起の準備が整っている。そして、レジスタンスは、すべての党派をまとめると同時に、「サイフ・アルクッズ」の対決を繰り返さなければならない。人民蜂起、レジスタンス、ゴラン高原とレバノン南部の外部戦線を動かすという2軸での決定的な戦いのための条件は整っており、それが満たされれば、シオニストの存在はこの地域から終わり、有利な国際条件の中で、間違いなくということである。

結論として。ジェニンのレジスタンス陣営の息子たちに挨拶し、そして神の意志によって、勝利は近い

守ろう！オリーブの木を カンパのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合

店名（店番）：〇九九店（099）
預金種目：当座
口座番号0303500



投稿：2023年1月30日 | 11:38 (PFLPのHPより)

占領下のヨルダン川西岸では、特にジェニンの大虐殺とそれに先立つ処刑の後、シオニスト・エンティティに対する抵抗行為がエスカレートしている。それは、占領軍によって、ジェニンの街とキャンプ、そしてナブルスとヘブロンで行われており、その有効性によってすべての大衆が参加している。特に、英雄的犠牲行為によって命を落とした若者たちは、殉教の道を歩み、また、民族闘争と抵抗の義務を果たした後に占領軍に捕えられた子供たちは、占領軍に捕らえられているのである。1、そして、このエスカレートする武装抵抗が、ガザ地区の抵抗派が篡奪都市アシュケロンにロケット弾を発射して交流した後、右翼、ファシストのネタニヤフ政権の政策への対応として、政治的分裂にもかかわらずパレスチナ人の闘いの結束を確認するものとして必要なものである。地理的な隔たりにもかかわらず。

それは、オスロ合意とその付属文書の廃止に基づくものである。オスロ合意は、長い政治交渉を通じて、特にエルサレムや難民の問題など、正当な国家権利を実現するための和解アプローチとしては無効であることが証明された。また、今日まで実地に有効な影響力が現れていないパレスチナの全党派による抵抗行動を活性化させるとともに、20代の個々の若者のイニシアティブを抵抗の燃料として残し、まるで、いわゆるアラブの春の革命で起こったことを繰り返したいかのように、これらの革命

の最初の抗議行動が始まった。若者や人民大衆から、そして、様々な色の政治勢力がその実りを得て、それが失敗につながり、政治権力に対する流血闘争への道が開かれたのであった。

このように、占領下のヨルダン川西岸における現在の武装抵抗は、現在の個々の状態や単純な道具にとどまることなく、エスカレートしていかなければならない。主に、占領軍兵士によるナイフ攻撃、それはしばしば即座の処刑である、に代表される。

それは、民衆の行動と武装抵抗という二つの柱に基づいており、両柱は、占領を打ち破り、自らの運命を決めるために闘う人々のために国際法によって正当化される。世界のほとんどの国が、権利を覆すために働く過激派、人種差別主義、ファシスト、シオニスト権、の政策に直面して、パレスチナ人の民族権とともに立っている。そのため、正当なパレスチナ人の愛国主義は、国際的正当性によって支持されており、まだ国際的コンセンサスを楽しんでいます。蜂起と武装抵抗の激化は、パレスチナの大義を苦しめた長年の疎外感の後に、関心をもたらすかもしれない。この地域のいくつかの国がまだ目撃している政治的・治安的混乱の結果として。国際フォーラムでの政治活動によって達成された成功に歩調を合わせるために、国家の状況の変化に投資し、あらゆる形態の民族闘争をエスカレートさせる必要があるのである。



投稿日時：2023年1月28日 | 09:43 (PFLPのHPより)

シオニスト占領軍は、ヨルダン川西岸を封鎖し、アパルトヘイトの壁によってパレスチナ内部とエルサレムから隔離し、都市を包囲し、都市間の連絡を遮断し、軍事検問所を広げ、各都市を周辺の村から隔離するために、

あらゆる手段を講じている。パレスチナ諸派の軍事機構は、この包囲体制を突破して、西岸、パレスチナ内部、エルサレム内の占領軍に痛打することに成功している。

占領に対してわが人民の前衛によって行われた対決におけるこの質的な発展と、武力対決への傾向は、いくつかの変数によって課せられたものであり、その中で最も

重要なものは以下の通りである。

第一に それは、より多くの無償の譲歩、占領の侵犯、入植地の拡大、より多くの弾圧、殺害、侵入をもたらした。

第二に、パレスチナ自治政府に対する信頼の喪失である。パレスチナ自治政府は、パレスチナから、売国的政府、占領の代理人兼安全保障パートナー、民族的なものをすべて抑圧する権力へと移行してしまったのである。わが国民は、この占領が、兵士のナイフの音を聞くだけで、わが土地と歴史的権利を犠牲にして、日々生き残り、拡大することを決意していることを理解した。

第三に、武器を手にしたパレスチナの若者の世代が出

現したことである。彼らの一部は、パレスチナの治安部隊に所属し、多くの場面で自分たちの期待を裏切る政治指導者に反発し、占領に立ち向かうために武装集団や大隊を結成した（ジェニン旅団、バラタ、ライオンズデンなど）。それは、パレスチナ本国のあらゆる場所で占領を叩くことを自らに課し、個別のケースまで登場し、占領者に対する質的作戦を実行に移したのであった。

このような対立の質的発展は、パレスチナ人諸派の現実が課した放棄の状態に対する自然な反応であったと私は考えている。それは、エルサレム、ジェニン、パレスチナ内陸部の多くの場面で凌ぎを削ってきたわが同胞の大衆の背後で喘いでいたのである。



2023年1月29日 | 16:48 (PFLPのHPより)

— 求められるのは、「オスロ」合意に対する断固たる姿勢である。

米国のアンソニー・ブリンケン国務長官のこの地域への訪問と、アブ・マゼン大統領との会談が近づいている。パレスチナ解放人民戦線は、断固とした姿勢でこの訪問に立ち向かい、安全保障の調整に戻るために行使するであろう圧力に屈せず、いわゆる「2国家解決」についての米国の立場に関するこれまでのすべての訪問や接触と同様に、売り込むであろう幻想を再び陥れることのないよう呼びかけた。

戦線は、必要な対応は、「オスロ」協定とその結果としての義務、実体のある国家の承認撤回、そしてパレスチナ人に対する虐殺に対するアメリカの政権の責任追及との断固とした姿勢であると強調した。なぜなら、それはイスラエルのファシストと植民地の政策と実践に援護を与え、それに対する説明責任から実体国家を保護し、パレスチナ人の権利に関連する国際的正当性の決定に背を向けるためである。

戦線は、わが人民の大衆と勢力に対して、さまざまな形で米国務長官の訪問を拒否する声を上げ、そこから生じうる危険を警告し、当局の指導部に対して、待機と遅延の立場を捨て、そのような訪問に賭けないよう呼びかけた。そして、すべてのパレスチナの都市、町、村、キャンプに民衆保護・抵抗委員会を結成し、占領との紛争を管理する統一的な国家指導部を形成すること、署名された協定に依拠したうえで分裂を終わらせ統一を回復するために真剣に努力することを通じて、パレスチナ内部の状況をはりめぐらすことを優先させることである。

パレスチナ解放人民戦線

中央メディア部

1-29-2023



投稿日時：2023年1月23日 | 21:37 (PFLPのHPより)

私はこの意見でこの問いに答えようと思うが、それは2つの部分に分けられる。第一部では、これらの障害のうち最も顕著なものを示し、第二部では、パレスチナ左翼勢力間の統一に到達するためのいくつかの条件を定義するよう努めるつもりである。私を取り上げる障害は主観的な障害の範囲に属するものであり、パレスチナ左翼は、主にパレスチナ人が統一的な社会経済形成と明確に定義された階級構造を欠いていることに加え、その分散と半数が難民化し、そのほとんどがキャンプで暮らしていること、そして何よりもその歴史的な土地を占領下に置いていることに起因する多くの客観的な障害に直面していると指摘しなければならない。

パレスチナ左翼勢力の統一に対する最も重要な障害は、私の考えでは、これらの勢力が苦しんでいる極度の弱さである。この弱さは、主に彼らが直面し、現在も直面しているアイデンティティの危機から生じるものである。1995年から現在に至るまで、パレスチナ左派は7つの統一の試みを経験しているが、そのすべてが前述のような弱点に照らして行われたために失敗している。彼が知っている唯一の統一成功体験である20世紀80年代の民主同盟の経験については、当時パレスチナ左派が拡大状態にあり、パレスチナ占領地内外のパレスチナ国民に大きな影響力を持ち、その勢力はアラブや国際レベルでの強力な同盟者に基づいて自分たちに自信を持っていたので、成功したのである。ベイルートからのパレスチナ勢力の出発後、パレスチナ解放機構の隊列に分裂が起こり、その両者の軍事衝突に発展するとすぐに、人民戦線と民主戦線が率先してそれらの間に共同指導部を形成し、その後、パレスチナ共産党とパレスチナ解放戦線が合意して民主同盟を結成し、それが議題に上ったのであった。パレスチナ解放機構の統一を回復するために活動するという課題である。この同盟、それから「ファタハ」運動と行った会談は、「アデン-アルジェリア協定」の締結に至ったが、民主イエメン、アルジェリア、シリア、レバノンの共産党が、ソ連と「社会主義体制」の国々の

支援を得て、これを支持した。民主同盟の努力のおかげで、1987年4月にアルジェリアでパレスチナ民族評議会の統一会議が開かれ、同年12月の大規模な民衆蜂起の発生に道を開くことになったことなどがある。

ここで、パレスチナの左翼勢力が直面しているアイデンティティの危機に話を戻すが、この危機はパレスチナやアラブの左翼勢力に限られたものではなく、むしろ世界の左翼勢力をほとんど含んでいることを冒頭に指摘する。例えば、フランス共産党は、過去数十年間、国政選挙で20%以上の得票率を獲得していたが、数ヶ月前に行われたフランス大統領選挙では、候補者の得票率は4.2%に過ぎなかった。

私は、パレスチナ左翼勢力が直面するアイデンティティの危機は、一方ではソ連の崩壊と、他方では1994年のパレスチナ国民政府成立後にパレスチナ社会に生じた構造変化と密接に関連していると主張する。パレスチナの左翼勢力、そしてアラブ人一般は、ソ連の崩壊と「現実的社会主義」と呼ばれた実験の失敗の影響を受けていたのである。

左翼勢力の中には、人民党の共産主義者のように、綱領、規約、名称のレベルで、変化のステップを踏んだり、人民戦線のように、最初の民族原則に戻ろうとするものがあるのは事実である。しかし、それが取った変革のステップ 共産党は、第一に客観的な理由で、第二に主観的な理由で、彼らがアイデンティティの危機を克服し、かつての大きな大衆の影響力を取り戻すことを可能にできなかった。私は、これらのステップを取る前に存在していた状況に今日の共産党の復帰が変革主義を悪化させ、彼らが直面しているアイデンティティ危機を解決しないと信じているものの中にいることから、今止める余地はない。

実際、このアイデンティティの危機は、パレスチナ左翼勢力の構造に多くの反響を残した。その最たるものは、わが国では伝統的に知識人が政党、とりわけ左翼の

主役であったことを知っている彼らの周りに、知識人は政党の主流であった。知識人が左翼勢力から遠ざかる現象は、党員教育の重要性を過小評価し軽視した結果、これらの勢力の拠点や幹部、さらにはその指導者の文化的装備の弱体化を伴うものであった。東洋学的なパンフレットが党教育図書館の中心的な位置を占めていたソビエト連邦の崩壊と、その結果生じた知的混乱を受けて、次のような問いが提起された。今、私たちは何を教育するのか？この教育資料の中身はどうなっているのか？左翼党員は、党派的教育を怠り、確固とした進歩的な文化セットを欠くことによって、社会に蔓延する伝統や慣習、それも反動的なものに服従し、非左翼党員の行動と変わらない道を歩むことが当然であったのである。このように党派的教育が軽視された結果の一つは、左翼勢力の基盤の中で、団結の必要性に対する認識が弱まり、あるいは存在しなくなったことである。彼らの主たる関心は、他の左翼勢力との団結を犠牲にしてでも、党派的に特別な利益を得ることになったのである。なぜなら、選挙による代表権の一般的な弱さと周縁性に照らして、すべての左翼勢力は、解放機構の機関、特にその執行委員会における指導者の代表権を保証するために、独立した存在を維持することに関心を抱くようになったからである。また、左派勢力間に生じた政治的相違が統一実験の成功を阻む役割を無視することもできない。なぜなら、1996年初頭の立法府と大統領選挙への参加をめぐるこれらの勢力の相違が、“パレスチナ人民民主運動”の経験の失敗につながったからである。2018年に結成された「パレスチナ民主議会」は、5つの勢力を含んでいた。

しかし、アイデンティティ危機の最も深刻な反動とそこから生じた弱点は、パレスチナ左翼勢力が民族闘争の課題と社会・民主主義闘争の課題の相互依存というスローガンを具体的なプログラムにできなかったことと、同盟を支配する「統一-対立-統一」の原則を吸収できなかったことに表れている。民族解放の段階において、他の勢力と左翼勢力を組む。左翼勢力は、狭い党派的利益を求めするために、パレスチナの舞台上で優勢な二大極の間で揺れ始めた。彼らの一部は、利益を求めあまり、「ファタハ」運動との同盟であるという事実を理解せずに、パレスチナ自治政府と同一視するように仕向けられたのである。イスラエルの占領に反対し、パレスチナ解放機構を維持し、その代表の統一を守るための闘いにおいて、パレスチナ自治政府が個人と集団の自由を抑圧し、広範な人民大衆の利益に反する経済政策を追求するとき、それと対決することを排除するものではない。

他の人々は、特別な利益を求めて、「ハマス」運動と同盟するように導かれたが、この運動と共同で占領に反対し、ガザ地区に課せられた包囲を解除するために闘うことは、社会的・民主的レベルでは、ハマスとの宥和ではなく、その社会プログラムの反動条項と政治的自由の抑圧に対する断固たる闘いを意味していることを理解しないままである。

さて、これらの障害を克服するために満たすべき条件を提示しようと努力する前に、左翼勢力の統一は、これらの勢力が栄光と公的存在を回復するために必要なだけでなく、パレスチナ民族運動全体をその難解な危機から脱却させるためにも必要だということを強調したい。この課題の必要性と緊急性については、いくつかの事実由来しているが、その中でも最も顕著なものは以下の通りである。

第一に イスラエルの新政権は、そのプログラムの最初の項目に記載されているように、ヨルダン川西岸、エルサレム、ガリラヤ、ネゲブ、ゴラン高原におけるユダヤ人の入植を拡大するために働くことによって、パレスチナ人への前例のない課題を提起し、(そしておそらく西岸全体、または少なくともエリアC、含む)基本法を転送するために、。パレスチナ人の自決権を否定するだけでなく、この人々の歴史的故郷の土地への権利を否定する「ユダヤ人の国民国家イスラエル」を、委任統治時代のパレスチナの土地に「大イスラエル」の夢を実現する形で現実に移設することである。

第二に、パレスチナ人の統一を前提としたこのアプローチとは対照的に、「ファタハ」運動と「ハマス」運動の間の政治的分裂が続き、ヨルダン川西岸とガザ地区の間の地理的分離が続いている。

第三に、ヨルダン川西岸地区のパレスチナ自治政府は、このようなイスラエルの質的転換にもかかわらず、オスロ合意から逸脱しない政策を続け、有効なパレスチナ人の自力に頼らなければ有効とはならない問題の国際化に賭けているが、「ハマス」運動の権威は、ガザ地区において、経済利益と引き換えに停戦政策の虜になっている。

パレスチナ人の祖国への権利の否定は、占領、入植、抑圧政策と相まって、1948年以来占領されている地域と1967年以来占領されている地域とディアスポラのパレスチナ人を客観的に結束させ、この結束を闘いで表現する

オリーブの会通信 第25号(通巻32号)

組織の枠組み(PL0の補助協議枠組みは、1948年地域のパレスチナ市民の代表が他のパレスチナ人の代表とともに参加する権限を与える)と政治プログラムを探させる。おそらく、パレスチナ左派の勢力は、この任務を遂行するために他の勢力よりも有能であろう。さらに、パレスチナの舞台における政治的分裂を克服するためには、特に、頭上での対話がすべて失敗した後、分裂を終わらせるために、「民衆は分裂を終わらせたい」委員会のようなスタイルの大衆委員会を形成して、分裂の両側に対して広く大衆の圧力を行使することが必要である。私の考えでは、左翼勢力は、他のすべての民主的勢力や個人と協力して、この任務を遂行する資格も他の勢力よりある。西岸とガザ地区の二つの当局に、占領に対する民族闘争の発展の障害となっている前記の政治手法を変えるように働きかける資格もあるのだから。

今日のパレスチナ左翼の勢力は、統一という課題が緊急の課題であり、むしろ国家的必要性であるという意識を持っているのだろうか。

現実には、この意識は一般的ではない。なぜなら、左翼の一部の勢力は、今日の緊急課題は自らの組織を強化し、影響力を増大させることだと考えており、民主戦線の一部の指導者が言及するように、左翼の勢力を結集することのみが、それを可能にするダイナミズムを生み出すことができるという事実を無視しているからである。結合勢力は、組織を強化し、左翼とその思想に共感する広範な大衆部門を引きつけることを目指しているが、その組織に居場所がなかったり、さまざまな理由で過去にその組織から離れたりするるのである。一方、人民戦線のような左翼勢力もあるが、彼らは左翼の統一をあきらめたようで、パレスチナの舞台で二大極に対抗する第三極を構成する広範な国民運動の創出に取り組むことを自らに課し、この広範な国民運動にはエンジンが必要だという事実を無視している。それを結晶化し、動員するための「ダイナモ」に、このエンジンは左翼の統一された力しかありえないのである。

そして、私が提示した障害を克服することが、左翼勢力の団結を可能にするかもしれないのであれば、この意見の最後に、私はこの課題を達成するために必要だと考える三つの主要な条件に立ち止まることにする。その第一は、「統一-対立-統一」の原則を吸収して現場で正しく実践し、社会的近代性の要素(宗教に反対するのではなく、精神領域と世俗領域を分離し、信仰と研究の自

由を保障し、タクフィールから距離を置く世俗主義)を保有することに基づいたプログラムを通じて党派教育に力を入れることによって、アイデンティティ危機を克服して左派勢力の政治的・知的自立を取り戻そうとすることである。これらの要素は、占領からの解放を成功させるだけでなく、パレスチナの現実に合致した社会主義の道を歩むための前提条件を作り出す入り口となるものである。

第二は、最近、パレスチナ民族運動の危機から抜け出す道を探している教師、弁護士、裁判官、知識人の抗議運動によって表現されている新しい社会運動に対する左派勢力の開放性である。ただし、この開放性は、パレスチナ解放機構の保護とパレスチナ人の代表の一体性に基づくものであることが条件である。

そして第三は、イスラエルの占領と入植に対する多様で散発的な抵抗の形態を一つの流れに統一し、この抵抗のための統一的な指導部を形成し、各アリーナの特異性を考慮した上で、アリーナの統一のスローガンを実現する広範な民衆蜂起の発生に道を開くことを求めるものである。

結論として、上記のすべては、左翼がパレスチナ人の間で有望な未来を持つとまだ確信しているパレスチナ人知識人の法哲学にほかならないのである。



アイリーン・アルアスワド

パレスチナ日誌

2022年10月15日

- ・ナブルスで、武力的な対峙で、数十人の負傷者
- ・ラマラの北部で、銃撃作戦を行ったという口実で、占領軍によって、銃撃され殉教した
- ・ベイトマールの衝突で、2人の市民が負傷。・シェイク・ジャラで占領軍に若者が攻撃され、逮捕
- ・占領軍は、シュファットキャンプの検問所を閉鎖。
- ・24時間で、7回の銃撃作戦が行われ、7人のイスラエル人が負傷した。
- ・イスラエル軍は、ネゲブ刑務所22区を襲撃した。
- ・占領軍は、デールヤリールの3人の青年を逮捕し、殉教者シュジャジャの家族を攻撃した。
- ・テオカの農地に入植者がキャラバンを再配置した。
- ・クワラト・バニ・ハッサンでの衝突で負傷者。
- ・カバランで、入植者たちが、120のオリーブの苗を根こそぎにした。
- ・占領軍は、ベイト・エル入植地作戦に参加した青年一人を逮捕した
- ・イスラム協力機構は、パレスチナの和解のためのアルジェリア宣言の調印を歓迎。
- ・占領軍がディール・ジャリールを襲撃

10月16日

- ・一人の労働者が、占領軍の銃弾で負傷。ヘブロン南
- ・ファタハは、医者たちにステップを延期するように呼び掛けた。イスラエルのエスカレーションのため。
- ・入植者たちがアルアクサを蹂躪。数百人が襲撃し、礼拝し、モスレムが入るの禁止した。
- ・ガンツは、ナブルスのテロリストの164人の親族の許可を無効にする決定をした。
- ・西岸での複数の逮捕
- ・テレグラムは、イスラエルのライオンズ・デンのアカウントを取り消すように要求を拒否した。
- ・占領当局は、ベイト・エル作戦で使われた武器を発見したと発表。
- ・ベタの衝突で、占領軍への銃撃と負傷者
- ・サルフィットで、青年が占領軍に銃撃され、死亡した。
- ・ガンツ：我々は、あらゆる方法を使って、テロ攻撃に対する活動を拡大する。

11月17日

- ・占領軍は、青年を逮捕し、ベツレヘムの家の内容物を破壊した。
- ・占領軍：パレスチナ人たちが、ナブルス近くの検問所に自家製の爆弾を投げた。
- ・サルフィットで殉教者ムジャヒド・ダウウドの葬儀
- ・2014年の侵略の犠牲者が、ガザで彼らへの補償を求めて国連事務所の前でスタンディングをした。

- ・ライオンズ・デンがナブルスでの占領軍兵士への爆弾の投てきの責任を主張。
- ・ライオンズ・デンがかかわりを否定。占領軍はナブルスから撤退し、青年を逮捕した。
- ・イスラエルは、エルサレムでの新たな入植地の計画を承認した。
- ・アルアクサの敷地で、女性たちと、報道のクルーを逮捕し、殴打した。
- ・西岸で、占領軍は、監視カメラの記録を押し出し、逮捕。
- ・占領軍は、アルアクサの市民を逮捕
- ・ヘブロン学生が、呼吸困難に、その人が逮捕された。
- ・ベイト・ウマールの占領軍との衝突で、呼吸困難者

10月18日

- ・西岸とエルサレムでの逮捕キャンペーン
- ・オーストラリアが、エルサレムをイスラエルの首都として承認することを否定。二国解決方式を支持。
- ・占領軍はナブルスの封鎖を強化し、検問所閉じ、他のところでも検問を行っている。
- ・占領軍は、ヘブロン南で、ベドウィン集落につながる道路を封鎖
- ・シンガポールがパレスチナ国家に公式の代表部を開く
- ・ラマラの北で、入植者たちの攻撃で、市民たちが負傷
- ・イスラエル軍の新たな参謀長が任命された。
- ・ヘブロン民族主義諸勢力は、防衛チームの創設と入植者への対峙を呼びかけた。
- ・占領軍は、ジェニンの南で、村々を攻撃し、いくつかの検問所を設置した。
- ・テル・ルメイダで入植者たちがオリーブ収穫者を攻撃
- ・占領軍は、西岸で軍事拠点に銃撃があったと主張。
- ・ヘブロン南のドラの西で、占領軍の銃弾で3人の労働者が負傷した。
- ・占領軍はツバスの道路を閉鎖した。
- ・占領軍はサレム村の市民を逮捕した。
- ・マサフェール・ヤッタで占領軍の攻撃で家族が負傷

10月19日

- ・サウジは、元ハマスの代表のムハammad・アルクダリを釈放した。
- ・占領軍の参謀長：我々は6か月で数十人のパレスチナ人を殺し、1500人を逮捕した。
- ・国連の当局者：2022年は、16年間で、もっともパレスチナの領土で流血の年であった。
- ・ナブルス南で、火炎瓶を投げた容疑で、占領軍によって、若者が負傷させられた。
- ・抵抗委員会：パレスチナの諸派とシリア大統領の会談で、違いを横に置いた。
- ・入植者たちは、ヘブロン中央で、市民たちを攻撃した。
- ・ヘブロンで、イスラエル軍のドローンが墜落した。
- ・アイルランド大学のBDSは、イスラエルへ武器を販売して

オリーブの会通信 第25号(通巻32号)

いる会社から、投資を引き上げた。

・ベツレヘムの東で、入植者たちは、連帯活動家の女性を刺し、他の人々を攻撃した。

10月20日

・エルサレムの東での新たな作戦で、追跡されていたウダイ・アルタミーミが殉教

・国連の専門家は、弁護士、アルハモウリの釈放をイスラエルに呼びかけ。

・デュファット難民キャンプで大規模集会、諸勢力がエルサレム県でのストを表明。

・アラブ連盟は、イスラエルのエスカレーションは、爆発的な状況に導くと警告。

・NGOは、彼らの機関での全面的なストを宣言

・ヘブロンとベツレヘムで逮捕

・西岸が立ち上がった。いくつかの地域で占領軍と対峙

・ガザでフォローアップ委員会が殉教者ウダイ・アルタミーミを追悼し、ガザ全体で服喪を宣言した。

・ヘブロン：占領軍がドラの家を取り壊した。

・ベツレヘムの北の入り口で、占領軍との衝突

・西岸での全面ストと接触点での対峙、負傷者・ラマラの東で、入植者立場車を燃やし、樹木を根こそぎにした。

・市民への攻撃、入植者たちが、ヤッタの東のカルメル公園を急襲。

・ヘブロン南のベドウィンから占領軍が10台の車を没収した。

・ベツレヘムの衝突で、占領軍の銃弾で2人が負傷

・入植者たちは、西岸の南と北部をカブル・ヒルウエの交差点を閉鎖して分断した。

・ Beit・フリック検問所で占領軍兵士が攻撃し、青年が負傷した。

10月21日

・シュファット・キャンプで衝突

・ Beit・ウマルでの衝突で、占領軍の銃弾で7人の市民が負傷。

・国連調査委員会は、継続的な占領から生じる法的影響の検討を求めている。

・ハワラ検問所の衝突で、呼吸困難者

・ハワラで入植者たちは、オリーブの収穫者たちを攻撃

・アラブ議会は、ナブルスの包囲を終わらせるように呼び掛け

・ナブルスで包囲を突破するためのデモの弾圧で負傷者

・占領軍は、ヘブロン青年を逮捕。

・占領軍の攻撃で、閣僚のアイド・シャバーンが負傷した。

・カフインの占領軍によるオリーブ収穫の参加者への弾圧で、数人が負傷した。

・ハーレツ紙：10日間に、入植者たちによってパレスチナ人に100以上の攻撃があった。

・カフル・カッダムの更新への弾圧で、占領軍の銃弾によって、子供と連帯活動家が負傷した。

・ブリンで入植者たちが人々を攻撃したとき、負傷・カルキリヤの衝突で、子供が負傷した。

・アイダ・キャンプでの衝突で、子供が負傷した。

・入植者たちが、シェイク・ジャラでパレスチナの旗を引きちぎった。

10月22日

・占領軍は、殉教者タミーミの喪に服している家を急襲し、衝突が勃発した。

・占領軍は、ザブバの村を襲い、ジェニンの西で増強している。

・占領軍は、アルアクサから4人の少年を追い出した。

・ Beit・ウマルの衝突で、占領軍の銃弾で、2人の青年が負傷。

・衝突、占領軍は、エルサレム作戦の実行者の父親と兄弟を逮捕。

・サルフィットの西で入植者たちがオリーブ摘みを攻撃

・カルキリヤで占領軍によって、ラビ・アラファが殺害された。

・入植者たちは、カリユトの土地の農民たちを拘束した。

・占領軍はベドウィンに急襲し、監視カメラの記録を押収した。

・カルキリヤで占領軍によって、青年が重傷を負わされた。

・シェイク・ジャラで少年が、刺殺作戦をしたということで銃撃された。

・エルサレムでイスラエル人が刺された。

・占領軍は、シリワンの青年を逮捕した。

・アルムガイルで占領軍との衝突が起こった。

・エルサレムのジャバル・ムカベルの町で占領軍と衝突

10月23日

・入植者たちは、カルキリヤ—ナブロス道路をブロック・メレツ党は、パレスチナ人との交渉の再開を呼びかけた。

・入植者たちは、ハワラの家を攻撃、二人の女学生が負傷した。

・ヘブロン西で、占領軍の銃弾で、労働者が負傷した。

・ヒラニの暗殺の後、占領軍は厳戒態勢を強めた。

・ライオンズ・デンは、ナブルスで一人のメンバーが暗殺されたと発表。

・占領当局は、エルサレム市民にジャバル・ムカベルの自宅を取り壊すように強制した。

・入植者たちは、サルフィットの西で、オリーブ収穫者たちを攻撃

・ナブルスとカルキリヤでアルキラニとラビの二人の殉教者の葬儀が行われた。

・労働党の女性議長は、西岸はイスラエルの一部ではないと発言。

10月24日

・ヘブロンジャベール地区で襲撃と殴打

・シェイク・ジャラ青年の逮捕、近隣の通りの封鎖。

・サルフィット：占領軍は、農民を追放し、分離壁の背後に拘束した。

・私服兵がラマラの西で、2人の元獄中者を誘拐

・イスラエル当局は、アルキブを208回目の取り壊し。

・ハマスは、シリアへのイスラエルの侵略を非難。

・シリアの防空体制はダマス近郊へのイスラエルの侵略に反撃した。

・占領軍は、ヨルダン溪谷で、太陽光発電のセルと設備を運んでいる車を没収した。

10月25日

・シェイク・ジャラで少年が逮捕された。

・占領当局は、厳戒態勢を宣言

・ベイト・ウマルで、ゴム弾と催涙ガスで数十人が負傷した。

・占領軍は、エルサレムの学生を逮捕。

・ジェニンで、家が包囲されたあと負傷した青年が逮捕された。

・ヘブロンで、労働者が占領軍の銃弾で負傷し、逮捕された。

・ラマラの北で、ナビサレの村で占領軍によって殉教者が射殺された。

・アルビレの北の入り口で、の衝突で銃弾による負傷者。

・占領軍は、ヘブロンで、府訴訟した青年を逮捕した。

・占領当局は、農業テント価値小屋をヘブロンで没収

・アルーチャで、占領当局は市民に自分の家を取り壊すように強制。

・ヘブロンでいくつかの地域で占領軍との衝突が起こり、3人の子供が逮捕された。

・カルキリヤの東のアズウンの町で占領軍との衝突勃発

・アイダ・キャンプで、占領軍との衝突で、実弾で負傷者。

10月26日

・アルツールの町で衝突

・ベイト・ウマルで、の衝突で銃弾で4人が負傷。

・西岸での逮捕と捜索、その中には、殉教者アルナブルシの兄弟が含まれている。

・月に5回目、ナブルスにドローンが墜落

・入植者たちが、北部ヨルダン溪谷の土地を更地にした。

・チリは、ベツレヘムに領事館を開くことを決定した。

・外国の技巧代表団が、ナブルスへのプロケードの効果を視察した。

・占領当局は、エルサレム市民に自分の家を取り壊すことを強制した。

10月27日

・アラブ連盟は、国連にパレスチナの民衆への国際的保護提供するように呼び掛け

・ライオンズ・デンの抵抗戦士がパレスチナの治安当局に投降した

・ラピド：海上国境の合意にサインし、レバノン、イスラエル国家を承認した。

・占領軍は4人の漁師を釈放し、5人目は釈放せず。

・占領軍は、アルジャラメ作戦の実行者の家を取り壊すことを発表した。

・イブラヒムモスクの近くの検問所で、占領軍は、刺殺を企てたとして、青年を逮捕した。

・ナスララーは、国境の引き離しはイスラエルとの正常化ではない

10月28日

・占領軍は、ベツレヘムの東で、青年を逮捕。

・ラマラの西で、投石されて入植者が負傷。

・ナブルスの南で占領軍の銃撃で2人の殉教者

・ヤッタの東で、占領軍は3人の子供を含む4人の市民を逮捕した。

・カフル・アルディクで入植者たちの攻撃で市民たちが負傷

・イブラヒムモスクの近くの検問所で2人の青年が逮捕された。

・カフル・カッダムの行進の弾圧で、子供が撃たれた。

・ナブルスの東ベイト・ダジャンの行進の占領軍による弾圧で負傷者

・占領軍は、シリアト・ハリシヤの家を捜索

・占領軍は、ウム・サファ村で4人の青年を逮捕

・占領軍はシュファトキャンプを攻撃した。

10月29日

・ジスル・アルザルカ：青年がイスラエル警察に殺害された。

・占領軍は、シリワンで青年を攻撃したあと逮捕。

・占領軍は、エルサレムで2人の姉妹を攻撃し、逮捕。

・ヘブロンで、テル・ルメイダで入植者たちがオリーブ摘みをしている人母とを攻撃

10月30日

・ヘブロン中央で、入植者たちの攻撃で負傷者。

・ヘブロンで、一人の入植者が殺され、3人が銃撃で負傷。

・入植者たちは、キリヤト・アルバ入植地の近くの市民の家に発砲した。

・ヘブロンで、占領軍に銃撃

・占領軍は、ヘブロンにつながるすべての入り口を入植者たちとともに封鎖した。

・ヘブロンで、西の衝突で、青年が逮捕された。

・占領軍は、ヘブロンで、自宅から青年を逮捕した。

・ナブルスの南で市民の複数の車を攻撃。

・ラマラお東で、入植者たちの攻撃で市民が負傷した。

・ヘブロンで、東、ベイト・エイノウンで占領軍との衝突が勃発。

・占領軍はヘブロンを封鎖、すべての道を閉鎖した。

・キリヤト・アルバの作戦の実行者の家を計測、兄弟を含む3人を逮捕。

・ヘブロンで、西で、入植者たちが市民の車に投石

・ベツレヘムで、占領軍との衝突

・占領軍は、ヘブロン地域への兵を増員することを決定した。

・占領軍は、ジェリコの南でのひき殺し作戦で4人が負傷。運転手は射殺された

・占領軍はベツレヘム県への入り口を閉鎖。

・入植者たちは、「ナブルスの南で臣民の家や車を攻撃

・ベツレヘムでの占領軍との衝突で、子供が銃撃された。

・ベイト・ウマルとアルアオウブキャンプでの占領軍との衝突で負傷者。

・シリワンで衝突

オリーブの会通信 第25号(通巻32号)

10月31日

- ・ 占領当局は、ベツレヘムの西のフサンの町の孤立化をしている。
- ・ 占領軍は、ナブルスの家を包囲し、逮捕、救急隊員がジェニンで負傷した。
- ・ エルサレムで老人と息子を逮捕
- ・ ベイト・ウマルの衝突で、金属弾で2人が負傷し、十数人が呼吸困難となった。
- ・ ヘブロンで、建設中の家を取り壊し
- ・ ヘブロンで青年が足に銃撃を受け、少女が死を免れたが、逮捕された。
- ・ 占領当局は、シェイク・ジャラに135戸の入植地住宅の建設を承認した。
- ・ 占領軍がシリワンを襲撃
- ・ 国連は、「イスラエルに核兵器を放棄するようにイスラエルに、決議を採択

11月1日

- ・ ネタニヤフ：レバノンとの合意交渉は、オスロの交渉と同じようにする。
- ・ アラブの指導者がアルジェリアで会談
- ・ 占領海軍は、ガザ沖で4人の漁師を逮捕し、2隻の船を没収した。
- ・ 北部ヨルダン渓谷で、占領軍はトラックを没収した。
- ・ ガザでライオンズ・デンを支持する大規模なデモ
- ・ 入植者と観光客がアブ・ラハマの墓地で礼拝を行った。
- ・ 占領軍は、ラマラとエルサレムで5人の青年を逮捕した。
- ・ イスラエル人がネゲブで投石により負傷した。
- ・ 占領当局は、ラマラの東の学校の取り壊しを承認した。

11月2日

- ・ 入植者たちは、エルサレム市民の車を攻撃
- ・ 占領軍は、ベツレヘムの西、アルワラジャデ「2軒の家を取り壊した。
- ・ イスラエル総選挙、ネタニヤフ陣営は、65議席獲得
- ・ トルカラムの近くで、占領軍は、刺殺攻撃を企てたとして青年を逮捕。
- ・ ガザで国連の前でバルフォア宣105周年を記念した。
- ・ アルジェリアのアラブ首脳会議は、2日目
- ・ 人民戦線：イスラエルの選挙結果は、右翼、ファシストの傾向を反映したものである。
- ・ イスラエルの右翼ブロックはクネセット65議席を占め多数派となった。
- ・ 占領当局は、アズンの町で建設の中止を通告した。

11月3日

- ・ エルサレムで全面スト。
- ・ ベイト・デュックの町で占領軍によって市民が射殺
- ・ 占領軍はナブルスの封鎖を解除した。
- ・ 占領軍は、ブルキンで農業設備のいくつかを取り壊し。
- ・ 占領軍は、西岸で大規模なキャンペーンを開始
- ・ アメリカはレバノンにイスラエルとの海上引き離し合意の

継続を保証

- ・ ヘブロンでの占領軍との対峙で、青年が逮捕され負傷した。
- ・ ヘブロンで、入植者が頭に重傷を負った。
- ・ 占領軍は、殉教者ハラビヤの家族3人を逮捕した。
- ・ ジェニンで、占領軍によって、2人が殉教した。
- ・ アルシュヨウクで入植者たちがオリーブを収穫していた家族を攻撃した。
- ・ ヘブロンで、ベイト・エイノウンの市民が入植者たちに攻撃された。

11月4日

- ・ 占領軍は、ガザのカセムの拠点を爆撃
- ・ 占領軍は、アスカル・キャンプで市民を逮捕
- ・ 入植者たちは、マダマの市民の家々を攻撃。
- ・ 占領軍はデヘイシャキャンプで2人の青年を逮捕した。
- ・ 入植者たちは、カリユトの村を数撃し、市民が拘束・ベイト・ダジャンの行進の弾圧で、負傷者

11月5日

- ・ アイダキャンプで、占領軍の銃弾で子供が負傷。
- ・ 占領軍は、ジェニンキャンプで2人の青年を逮捕した。
- ・ 占領軍は、占領下エルサレムの自身の家を取り壊すように市民に強制。
- ・ デイル・ニザムでファタハの書記を含む4人の市民が逮捕された。
- ・ 占領軍はエルサレムで少女を逮捕した。
- ・ アルコズ大学ほ周辺での衝突で、銃弾で負傷。

11月6日

- ・ ヘブロンで、市民の家が入植者たちによって攻撃された。
- ・ ラマラで占領軍の待ち伏せで、一人が殉教し、重傷者が出た。
- ・ カフル・エルディークでオリーブの収穫者を入植者が攻撃。
- ・ ベツレヘムの南東で、入植者たちが市民の車を攻撃
- ・ 入植者たちは、ヘブロンで、新たな前哨基地を建設している。
- ・ 北部国境で、占領軍は軍事演習を開始した。
- ・ ヨルダン渓谷で、入植者たちは土地を耕した。
- ・ 24時間内に西岸で5件の発砲があった。
- ・ ベイト・アワで約12人の労働者を拘束した。
- ・ サルフィットの西で、入植者たちに市民の車が攻撃された。
- ・ サルフィットの西で、入植者たちは、オリーブ19袋と農業道具を盗んだ。
- ・ 占領軍は南部レバノンに照明弾を発射した。

11月7日

- ・ 占領軍は、選挙期間中に作戦を行うとしていたとしてパレスチナ人を逮捕した。
- ・ 西岸とガザで、武装衝突、逮捕
- ・ 北部ガザのベイト・ハノウンの検問所で市民が逮捕された。
- ・ ラマラの西の機微やの村で占領軍は家の取り壊し
- ・ エルサレム：占領軍の機甲部隊は、シュッフアトの商業施設を取り壊した。
- ・ 自由船団連合と国際団体は、ガザの封鎖を破るための努力

を再開する

- ・ 占領当局は、エルサレム市民ウィ殉教者ウダイ・タミーミに武器を撃った容疑で、訴追

11月8日

- ・ イスラエル：ジャラメ作戦の実行者の家の取り壊し命令をだした。
- ・ 占領軍は Beit Einoun の入り口を入植者とともに封鎖。
- ・ 占領軍は、シュファットキャンプを急襲。青年を逮捕。
- ・ 入植者たちは、ジェリコの北、アルアウジャの寄進局の土地の一部を占拠した。
- ・ 占領軍は、トルカラムの東、ヌール・シャムス・キャンプの青年を逮捕。

11月9日

- ・ イスラエルで、新政府に向けた協議が開始された。
- ・ ヨセフの墓の周辺での衝突で一人が殉教、56人負傷
- ・ イスラエルのシリア・イラク国境への爆撃で20人が殺された。
- ・ Beit Umar の衝突で、占領軍の銃弾で、5人の市民が負傷した。
- ・ 占領軍は、ヘブロン of イブラヒミ学校を急襲。

11月10日

- ・ 殴打のあと、3人のエルサレムの青年が逮捕された
- ・ ガンツは、イスラエル社会で過激主義が台頭することを心配している。
- ・ Beit Umar の衝突で、呼吸困難者
- ・ ベツレヘムの東、ツクの町で衝突
- ・ 占領軍は、ジェニンを急襲し、追われていたシディキを逮捕した。
- ・ 注イスラエル米国外務省、我々は、西岸ヨルダン渓谷の併合の企てに対峙しない。
- ・ 占領軍は、西岸での逮捕キャンペーンを開始
- ・ 占領軍は、Beit Hanoun の検問所でアルマガジの市民を逮捕。

11月11日

- ・ 占領軍はベツレヘム市を急襲した。
- ・ アルビレの北の衝突で、占領軍の銃弾で、少年が負傷した。
- ・ ナブルスの東、Beit Dajan での行進を弾圧。
- ・ 占領軍はジェニンの西の村々を急襲。

11月12日

- ・ 占領軍は、バブ・アルアモウドとシュファットの2人の青年を逮捕した。
- ・ 48年領内のタイベで取り壊し政策に反対するデモが行われた。
- ・ ハマス：我々はアルジェリア宣言を履行し、違いは終わらさなければならない
- ・ ナブルスの東で、入植者たちが3人の市民を拘束した。
- ・ 占領軍はジェニンの南で、2人の釈放された獄中者を逮捕し、数十人が呼吸困難になった。

11月13日

- ・ ベツレヘムの南東で入植者たちが車を攻撃
- ・ 西岸での逮捕。
- ・ ヘブロン of ドラの西で入植者の攻撃で2人が負傷した。
- ・ ナビサレの村の入り口で占領軍との衝突
- ・ ベツレヘムの南で一軒の家と二つの農業施設の取り壊しを占領当局は通告
- ・ イスラエル警察、48年領内で働いていたアズウンの青年を逮捕した。
- ・ 占領軍は、シリワンの2人の若者を逮捕した。
- ・ シリア軍：イスラエルによる爆撃で2人の兵士が死亡。ホモス。
- ・ ヘブロンで占領軍の銃弾で一人の青年が負傷。

11月14日

- ・ 占領軍は、ラマラ近くで、2人の青年に重傷を負わした。
- ・ 占領軍は、ベツレヘムの南、ミンヤの村の3軒の家を取り壊した。
- ・ ラマラで占領軍の銃撃で殉教者。
- ・ 占領軍は、西岸で、逮捕キャンペーンを開始した。
- ・ 占領軍はイサウィヤのカップルを逮捕した。
- ・ イブラヒミモスクの近くの軍事検問所で、女学生を逮捕した。
- ・ サルフィットの西で、1500本以上のオリーブの木を根こそぎにし、150ドノムを更地にした。
- ・ 占領軍はシリワンからの青年を逮捕した。
- ・ アル・アラキブは、209回目の取り壊しを受けた。
- ・ Beitunia で少女が殉教した。
- ・ ナブルスの大衆が、独立宣言を記念し、アラファトを追悼した。
- ・ 占領軍はラバからの青年を逮捕した。
- ・ 私服部隊がアルツルの青年を逮捕した。

11月15日

- ・ カルキリヤの獄中者ヒランの家を占領軍が計測
- ・ 外務省は、米国外務省が殉教者アブアクレの殺害の捜査を行う決定をしたことを歓迎。
- ・ デュラの襲撃で、子供が負傷し、4人の市民が逮捕された。
- ・ ヘブロン of 北で、占領軍が葬儀を攻撃し、少年が負傷し、子供が逮捕された。
- ・ 占領軍は、サルフィット作戦の実行者の家族の家を急襲した。
- ・ ナブルスの南で、入植者たちが市民の車を攻撃
- ・ 占領軍は殉教者スーフの家を急襲し、親族を逮捕した。
- ・ 殉教者スーフの占領軍による殺害を非難する行進が行われた。
- ・ サルフィットの西出入植者たちが市民の車を攻撃
- ・ ハマスは、サルフィット作戦を祝う大規模な行進を組織した。



クフィエを掲げよう Raise it
アタバとミジャナを歌って楽しもう

肩を優しく揺すって
ジャフラ、アタバ、ディヘヤ

そして銃が貢献し、より楽しくしてくれる [興味深い二重の意味、これまでの歌は、人々がアタバとミジャナを歌い、ダブカをする結婚式を描いてきたが、伝統的にそれらはいつも空中で銃を撃つことを伴っていた]。

ラマツラと火の山(ナブラの愛称)に旗を掲げよう。
あなたの誇り高きヘッドバンドは、気概と決意の象徴です [ヘッドドレスとしてのクフィエは、伝統的にヘッドバンド 3qal と関連していました]。

第一弾は旅立ちを語る
その時が来たら、私たちは上にあるものを下にする [古いパレスチナの諺をアレンジしたもの]。

クフィエを掲げよう Raise it

アタバとミジャナを歌い、楽しもう

果樹園でイチジクとオリーブを育てた
小麦の種とレモンの木を持ち帰った

あなたが私の国を呼ぶとき 私たちは準備ができています

戦いの日に勝利の道を照らす

クフィアを掲げてください 挙げてください
アタバとミジャナを歌い、楽しもう

<https://lyricstranslate.com>

Youtube で RAISE THE KEFFIYEH HIGH
検索してください



おいしいパレスチナ

シシバラク

(羊の団子ヨーグルトソース)

14世紀に作られたこの料理は、様々な料理の寄せ集めであることは間違いありません。

餃子は、イスラム教以前の古代ペルシャを起源とする可能性が高く、レバント地方で広く食べられている。餃子そのものは、中国の漢の時代に発明されたものです。

400年続いた漢の時代は、シルクロードの交易が盛んであった。

そのため、小アジアに水餃子が伝わったと考えられています。

シシ・バラクとは？

シシ・バラクは、簡単に言うとヨーグルトで煮込んだ肉団子である。

形や大きさはトルテリーニによく似ています。

牛肉を使う人もいますが、私はこの地域でよく食べられている羊のひき肉を使うのが好きです。

餃子の皮に肉詰めしたものを乗せて折り、月形に挟みませす。

そして、両端を合わせ、またつまんでトルテリーニの形にする。

この段階で冷凍保存しておけば、他のパスタと同じように後で使うことができる。

具材やスパイスは、その土地の文化や料理の影響を受けている。

中国の餃子には豚肉が多く使われているが、イスラム教が浸透するにつれ、その習慣は変わっていった。

豚肉はイスラム教徒にとって禁忌の食材であるため、地元で飼育されている羊肉で代用されるようになったのです。

このレシピの味付けは家庭によって様々で、出身地によって異なるようです。

私は、クミン、コリアンダー、シャッタ（チリペースト）を使って、繊細な味付けをするのが好きです。

私の経験では、スパイスの繊細さがヨーグルトソースに負けないようにすると、一番おいしくできます。

シシ・バラクの作り方

この料理は少し時間がかかりますが、思ったより簡単で、それだけの価値があります。



牛や羊のひき肉を使い、スパイスを加えて混ぜ合わせた具を作ります。

生地を作り、平らに伸ばしたら、次は生地を切ります。クッキー型やビスケット型を使って、丸い生地をカットするのが一般的です。

鍋にお湯を沸かす前に、餃子の中身を詰め、形を整えます。

シシバラク

沸騰したお湯に餃子を入れ、中火で20分ほど煮込みませす。

作り方は、具の入ったパスタを茹でるのと同じです。

小鍋にオリーブオイル少々を入れ、松の実を軽く焼き色がつくまで炒る。

茹で汁少々とヨーグルト、バターを混ぜ合わせ、ソースを作る。

茹でて水気を切ったシシバラクをソースに加え、コショウと松の実を加える。

玉ねぎのみじん切りを炒めて、ドライミントと一緒にソースに加えることもある。

(小さな団子に植物油を塗り、オーブンできつね色になるまで焼き、ソースに入れる方法もある)

作り方のコツ

一番大切なのは、餃子を焼くときに開かないようにすることです。

そのためには、一口大の生地を詰めすぎないことと、生地の外側の縁を湿らせることです。

生地の端はよく絞り、互いに密着させる。

餃子を長く水に浸けておいて、茹で過ぎないようにする。また、作った後、15分ほど生地を休ませると、より美味しく仕上がります。



パレスチナの野球チームが西アジアカップチャンピオンシップの出場権を獲得



1月26日40年間の獄中生活から解放されたカリム・ユネス、いとこのマヘル・ユネスは、占領当局より、自治政府による補償金であるとして所持金を、家族の車を没収され、尋問を受けている



司法改革案に反対し、ネタニヤフに抗議するイスラエル人のデモ

今号の内容

ジェニンの虐殺はインティファダに導くか?.....1

レジスタンスと新たな蜂起の勃発は必至.....2

占領に直面するレジスタンスに何が必要か.....4

武装インティファダ.....4

人民戦線声明.....5

左派勢力の結束を阻むものは何か?.....6

パレスチナ日誌.....9

パレスチナの愛した歌.....14

おいしいパレスチナー.....15

トピック.....16



1月21日に行われたボイコットプーマ抗議行動、御堂筋で



プリンケン の ラマラ 訪問 に 抗議 する デモ